

高校における短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する調査研究（2年次／2年）

大分県教育センター教育相談部

指導主事 伊藤 綾

I 研究の背景

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）によれば、いじめ・不登校の課題は未だ改善されず、大分県でも大きな課題となっている。その背景には、学校・家庭や地域社会の変化により、人間関係をつくるスキルを身につける機会が減少していることがあると考えられる。大分県教育委員会でも、この問題の解決に向けて、令和3年度から全ての公立小・中学校、県立高校及び義務教育学校で、短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」（以下、短時間プログラム）の実進を進めている。

II 現状と課題

大分県教育委員会は、短時間プログラムの実進に向け、公立小・中学校 22 校に地域児童生徒支援コーディネーターの配置や県立高校 4 校で実践研究モデル校を指定して実施等、段階的に取組を進めてきた。さらに、令和3年度からは、全公立小・中・高校及び義務教育学校において短時間プログラムの実施が始まった。

県教育センター教育相談部では、平成 27・28 年度に、冊子「大分県版人間関係づくりプログラム（小学校・中学校・高校編）」を作成し、全公立小・中学校・高校へ配布した。

昨年度の調査研究の結果から、短時間プログラムを組織的・継続的に取り組むことが、生徒の幅広い人間関係をつくる力や対話的で深い学びを達成するための基礎的な学習態度等を育成することに有効であることがわかった。そして、教職員が短時間プログラムを「生徒が自分の思い等を無理なく言語化する練習ができる学習場面」と捉え、意識的に取り組むこと、継続的に取り組むための実施計画の作成をし、生徒が安心して取り組むことができるようにすること、且つ教職員の負担軽減につなげていくことが必要であるという課題が挙げられた。

III 調査・研究の内容

1 調査研究の目的

高校において、短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」を組織的・継続的に取り組むことが、生徒の人間関係をつくる力を育成するために有効かを検証する。また、組織的・継続的に実施する上での効果的な取組や課題を明確にする。

2 研究協力校で短時間プログラムを実施

県内の県立高校 2 校で、前年度末までに作成された年間計画に沿って、表 1 に示す時間帯で短時間プログラムを実施した。どちらの学校においても、年度初めに「人間関係づくりプログラム研修会」を実施し、教職員の共通理解を図った。

表 1 研究協力校の学校規模と、短時間プログラムの実施時間帯

研究協力校	学校規模	実施時間帯
A校・1～3学年 (研究協力3年目)	各学年4学級 30～35名程度在籍	隔週火曜日 16:05～16:20
B校・1～3学年 (研究協力2年目)	各学年4学級 20～30名程度在籍	隔週木曜日 16:05～16:20

3 継続的に行う短時間プログラムを活用するにあたって生徒と教師の意識変化に関するアンケートの実施及び経年比較

協力校2校の教職員、生徒を対象にアンケートを実施した。短時間プログラムを継続して行うことでの効果を検証するため、前年度と同じ項目でアンケートを行い、結果を比較することとした。アンケートの実施時期は今年度の短時間プログラムを十分に実施出来ている時期(10月)に行った。数値の分析にあたっては、指導助言者である大分大学教育学部教授藤田敦氏に依頼し、経年比較を行った。

4 短時間プログラムの資料活用

教職員研修申込システム(YELL)に短時間プログラムに関する実践資料集を掲載し、出前研修等で紹介した。教職員が各校で短時間プログラムを実施するときに有効に使えるよう促した。

IV 調査・研究の結果

1 協力校における短時間の「人間関係づくりプログラム」の実施(別添資料1・2)

<両校共通>担当教員を中心に年間実施計画を作成した。4月当初に全教職員対象の校内研修(県教育センター出前研修)を行い、実施理由・目的などを理解した上で、短時間プログラムの数種類のエクササイズを体験し、統一した流れを確認した。教職員共通理解の下、継続的に行うプログラムを開始した。

<A校>エクササイズは、4種類で固定し昨年度と同様に実施した。各回の内容については担当分掌が協議し決定した。毎回、担当分掌主任がワンペーパーにまとめたプログラムの進め方やめあて、エクササイズの教材を Teams 上で教職員間共有した。エクササイズの教材については、生徒もタブレット端末を使用し、手元で見ることができるようにした。また、終了後のふりかえりを Teams 上で入力回答することで、生徒の声を即座にクラス担任等が確認できるようにした。

<B校>各学級単位を基本として実施した。隔週で実施したエクササイズは、ペアワークやグループワークなどメンバーを変えて行うものを担当教員が中心となり、生徒の実態に合わせて設定した。エクササイズの流れ等は教職員へデータとして配信し、生徒の実態に合わせて電子黒板へ必要事項を投影したり、手元で確認したりできるようにした。終了後に生徒はタブレット端末でふりかえりシートを入力し、教職員へフィードバックするようにした。学期に1回1コマを使いソーシャルスキルトレーニングを実施した。

2 生徒と教職員の意識変化のアンケート結果

R4年度との学校全体の意識の変容を調べるため同様の項目でアンケート調査を行った。対象は両校の教職員及び生徒とし、R4年度2回目アンケート結果との比較を行った。アンケートは4段階評

高校における短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する調査研究

価とし、その数値について2校の平均を用いて経年比較を行った。

生徒のアンケートでは、2校の平均値が①～⑦の全項目においてR4からR5の数値が上昇した。(表2) 一方、教職員のアンケートでは③④⑤の項目において数値が下降した。(表3)

生徒、教職員ともに最も上昇した⑥について付随して行った、どんな場面でよい影響で感じたかを、「質疑応答」「発表」「ペアワークまたはグループワーク」から複数選択をする質問に対して、B校生徒においてR4年は「ペアまたはグループワーク」が67%で最も多かったがR5年は「ペアまたはグループワーク」と「質疑応答」が61%であった。(R4年の「質疑応答」は47%)

各質問項目の相関関係をみてみると、①と③、④と⑤、⑤と⑥に強い相関関係があることが分かった。(別添資料3)

また因子分析を行ったところ、活動中についての項目に評価の高い生徒群は変化に関する項目の得点も高いことが分かった。(別添資料4)

A校において「短時間プログラムはあなたにとってどのような力を高める可能性がありますか(複数選択可)」の質問項目では「リーダーシップ」「自己理解」「他者理解」「コミュニケーション能力」「自己肯定感」「他者肯定感」「価値観の広がり」「協調性」の8つの選択肢の中で「他者理解」「価値観の広がり」「協調性」が大きく上昇した。(表4)

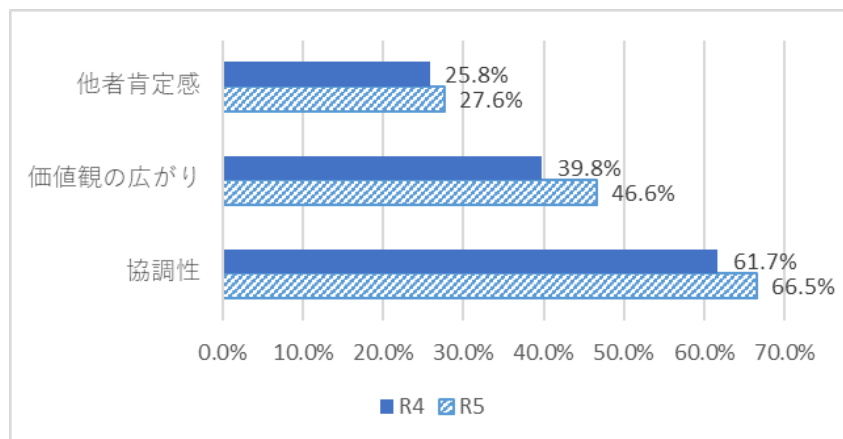
表2 R4年、R5年 2校生徒平均比較 (R4 n=489 R5 n=550)

質問項目	評価(4段階)※点数が高いほど肯定的な意識を示している		
	R4両校平均	R5両校平均	R5-R4 差
①友だちとの関係づくりにより影響や変化を感じる	3.24	3.35	0.11
②先生と生徒との関係づくりにより影響や変化を感じる	2.71	2.89	0.18
③クラス内での居場所づくりにより影響や変化を感じる	3.03	3.23	0.20
④コミュニケーション能力の向上により影響や変化を感じる	3.13	3.27	0.14
⑤ソーシャルスキル(社会性:あいさつ、話の聴き方、態度等)の向上により影響や変化を感じる	3.24	3.32	0.08
⑥各教科等の授業でよい影響や変化を感じる	2.85	3.10	0.25
⑦授業以外の活動でよい影響や変化を感じる	3.00	3.13	0.13

表3 R4年、R5年 2校教職員平均比較 (R4 n=62 R5 n=36)

質問項目	評価(4段階)※点数が高いほど肯定的な意識を示している		
	R4 両校教員	R5 両校教員	差
①友だちとの関係づくりにより影響や変化を感じる	3.04	3.17	0.13
②先生と生徒との関係づくりにより影響や変化を感じる	2.71	2.83	0.12
③クラス内での居場所づくりにより影響や変化を感じる	2.98	2.89	△ 0.09
④コミュニケーション能力の向上により影響や変化を感じる	2.87	2.79	△ 0.08
⑤ソーシャルスキル(社会性:あいさつ、話の聴き方、態度等)の向上により影響や変化を感じる	2.87	2.77	△ 0.10
⑥各教科等の授業でよい影響や変化を感じる	2.71	2.85	0.14
⑦授業以外の活動でよい影響や変化を感じる	2.81	2.83	0.02

表4 A校「短時間プログラムはあなたにとってどんな力を高める可能性があると思いますか」比較 (R4 n=330 R5 n=337)



V 考察

1 成果

継続的に短時間プログラムを行っている2校の生徒のアンケートの結果を見ると、「クラス内での居場所づくりにより影響や変化を感じる」はR4年平均3.03、R5年平均3.23となっており、生徒は一貫して好意的に短時間プログラムを受け止めて取り組んでいることが分かる。短時間プログラムを継続することで安心できる環境作りができていていると考えられる。「各教科等の授業でよい影響や変化を感じた」はR4年平均2.85、R5年平均3.10となっている。授業において「ペアまたはグループワーク」と「質疑応答」において良い影響や変化を生徒たちは感じていることが分かった。これは、継続して短時間プログラムを行うことでペアやグループワークに慣れたこと、小グループで意見を出し合うことに抵抗が減ったことなどから、安心して聞きたいことを聞くことができる、聞かれたことに自分自身で考えて答えることができると感じる生徒が増えたと考えられる。生徒にとって、継続的な短時間プログラムを行うことはクラス内での友人との人間関係づくりだけでなく、授業を受ける時にも有効であると感じていることが分かった。

関係関係を見てもコミュニケーション能力の向上により影響を感じている生徒はソーシャルスキル能力の向上により影響や変化を感じており、ソーシャルスキル能力の向上により影響を感じている生徒は各教科の授業においてもよい影響を感じていることが分かった。「よく話ができる」ということが生徒たちの生活全般により変化を与えていると考えられる。また因子分析では、短時間プログラム中についての質問に評価の高い生徒は、他の変化に関する質問項目への評価も高かった。つまり、活動的に参加している生徒には大きな波及効果があることが分かる。

実践校2校のアンケート結果をそれぞれ見た場合、昨年の結果では学校間の差が見られていたが、今年度は両校間の差はほとんど見られなかった。2年目の実践校であるB校に実践の成果が現れており、継続の成果であると考えられる。また、両校の結果を見ても全ての質問項目がポジティブな評価になっているため、全体的により結果であり継続して実践することで確かな効果が見られた。

実践3年目のA校では、短時間プログラムを続ける中で、「他者肯定感（相手のありのままを認める感覚力）」「価値観の広がり（自分以外の人からのアドバイスを受け入れたり、新しい考えを取り入れたりする力）」「協調性（自分とは異なる環境や立場にいる人と、協力しながら物事を進めていく力）」を高める可能性があると考えられる生徒の割合が上昇した。継続する中で、生徒たち自身が学習指導要領においても育成を目指している「他者の価値を尊重し、多様な人々と協働する力」がつくと感じていることが分かった。

2 課題

2校の実践から、高校において短時間プログラムを組織的・継続的に取り組むことは、生徒にとっては他者理解をすすめる、クラス内の居場所づくりや基礎的な学習態度を育成することに有用性を感じていると考えられる。一方で、教職員のアンケート結果を見ると生徒よりも有用性を感じていることが少ないことが分かる。アンケートの結果を見ると、R5年平均がR4年平均より下降した項目が多く、生徒の結果と数値を比較すると、全項目低かった。数値だけでなく、記述での回答でも「クラス担任の負担感を感じる」「生徒の前向きな姿勢を感じない」というように、教職員からは効果の有用性を感じている回答は少なかった。また、「クラス替え当初はよいが、2・3学期の実施回数は検討の余地があると思う」という意見もある。短時間プログラムを継続的に行ったことによる生徒への長期的な成果について理解がまだ十分に進んでいないことや、実態に応じた内容の検討の不足も要因にある

高校における短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する調査研究

と思われる。

しかしながら、アンケートの「生徒の友だちとの関係づくりにより影響や変化を感じる」においては、R4 平均 3.04、R5 平均 3.17 となっている。つまり、教職員は負担感を感じる一方で、生徒同士の関係づくりにおいては短時間プログラムの効果があると感じていることが分かる。成果や生徒の肯定的なアンケートの結果をA校、B校のそれぞれに還元していきたい。また、次年度における教育相談部出前研修「人間関係づくり（大分県版人間関係づくりプログラムの活用）」等で、教職員が効果を感じられた点を具体的に研修で発信し、生徒の声や教職員が感じた有用性を積極的に伝えていく。生徒にとって有意義な活動であることの理解が進めば、教職員も有用性を感じることができる短時間プログラムが構築されていくと考えられる。一見すると短時間プログラムは「対話の練習」と捉えられがちだが、それぞれの視点や価値観のやりとりの仕方を学ぶ場であると教職員が認識することで、進学や就職してからも活用できる力（他者理解や価値観の広がりなど）が育成されるであろう。生徒のアンケートでも進学や就職においても活用できる可能性があるという回答も一定数得られている。この結果も含めて伝えていくことが大事であると考ええる。

加えて、全体的に肯定的な評価をする生徒が多い一方、少数ではあるが否定的な評価をする生徒もいる。今後はその生徒がどのようにプログラムに参加していたか、その生徒はどのようなところに困っていたのかなど、個人の状況をアセスメントして支援したり、参加方法を工夫したりすることが、今後の短時間プログラムの改善や継続のために必要である。

VI 参考引用文献等

- ・令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（2023 文部科学省）
- ・大分県版「人間関係づくりプログラム」小・中・高校編（2016・2017 大分県教育センター教育相談部）
- ・清水裕士（2016）. フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案　メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73.
- ・高等学校学習指導要領（平成30年）

大分県教育センター教育相談部

別添資料 1

A校 R5 年度短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」実施内容計画

実施日		エクササイズ等活動内容	めあて	構成人員
1 学 期	4 月	15 生徒向け オリエンテーション	「スマイルタイム」の目的、具体的な 取組内容について知る。	グループワーク
		26 アドジャン	「スマイルタイム」の流れを知る。 クラスの友だちのことを知る。	グループワーク
	5 月	9 二者択一	流れを知る。自分のことを相手に伝える。 相手の考えを受け入れる。	ペアワーク
		23 いいとこ四面鏡	流れを知る。友だちの良いところを見 つける。 自分の良いところに気づく。	ペアワーク
	6 月	14 1分間スピーチ	流れを知る。 クラスの友だちのことを知る。 自分のことを相手に伝える。	4～5人 グループワーク
	7 月	10 WEBQU 実施（2年） 11 WEBQU 実施（1年）	自分のことを知る。 自分のことを知る。	個人
		18 校内アンケート 1	1学期の活動をふりかえる。	個人
2 学 期	8 月	29 アドジャン	自分のことを相手に伝える。 相手の考えを受け入れる。	ペアワーク or 3～4人 グループワーク
	9 月	12 アドジャン	自分のことを相手に伝える。 相手の考えを受け入れる。	ペアワーク or 3～4人 グループワーク
	10 月	17 二者択一	自分のことを相手に伝える。 相手の考えを受け入れる。	ペアワーク or 3～4人 グループワーク
	11 月	7 1分間スピーチ	話を簡潔にまとめて相手に伝える。 相手の考えを受け入れる。	ペアワーク
		21 WEBQU 実施	自分のことを知る。	個人 （1・2学年）
	12 月	5 いいとこ四面鏡	友だちの良いところを見つける。 自分の良いところに気づく。	4～5人 グループワーク
21 校内アンケート 2		2学期の活動をふりかえる。	個人	
3 学 期	1 月	16 アドジャン	自分のことを相手に伝える。 相手の考えを受け入れる。	3～4人 グループワーク
	2 月	6 1分間スピーチ	話を簡潔にまとめて相手に伝える。 相手の考えを受け入れる。	ペアワーク
	3 月	12 いいとこ四面鏡	自分や友だちの良いところに気づく。 友だちからの評価を受け入れる。	4～5人 グループワーク
		19 校内アンケート 3	1年間の活動をふりかえる	個人

※クラス主体で実施。

※エクササイズの種類とお題は実施時期によって検討・変更。

高校における短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する調査研究

別添資料2

B校 R5 年度短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」実施内容計画

実施日		エクササイズ等活動内容	めあて	構成人員	
1 学期	4 月	アドジャン	聴く姿勢の確認(うなずく、笑顔、相手に視線を向ける)をし、相手の話を最後までしっかりと聴く。	ペアワーク	
					20
		27			
	5 月	12	hyper-QU 実施	自分のことを知る	個人
		24	アドジャン	聴く姿勢の確認(うなずく、笑顔、相手に視線を向ける)をし、相手の話を最後までしっかりと聴く。	ペアワーク
	6 月	8	二者択一	相手の話を聴き、受け入れると同時に自分の考えも相手に伝える。	3～4人 グループワーク
15					
7 月	6	ジョハリの窓でせーのドン!	「他から見えている自分」を知り、「自分の気づいていない一面」や「思わぬ長所」を発見する。 「自分しか知らない自分」を開示していくことで、自己を開放し、打ち解けた人間関係を築いていく助けとする。	3～4人 グループワーク	
					19
2 学期	8 月	アドジャン	聴く姿勢の確認(うなずく、笑顔、相手に視線を向ける)をし、相手の話を最後までしっかりと聴く。相手の話を聴き、受け入れると同時に自分の考えも相手に伝える。	3～4人 グループワーク	
					24
		31			
	9 月	7 (14)	二者択一		相手の考えを受入れると同時に、自分の考えもしっかりと相手に伝える。
	10 月	19 26	二者択一		相手の考えを受入れると同時に、自分の考えもしっかりと相手に伝える。
	11 月	9	ジョハリの窓でせーのドン!		「他から見えている自分」を知り、「自分の気づいていない一面」や「思わぬ長所」を発見する。 「自分しか知らない自分」を開示していくことで、自己を開放し、打ち解けた人間関係を築いていく助けとする。
12 月	7 14	いいとこ三面鏡 学期末アンケート	自分の長所について知り、自己の個性の伸長につなげる。 2学期の活動を振り返る	3～4人 グループワーク 個人	
3 学期	1 月	11 25	ジョハリの窓でせーのドン!	「他から見えている自分」を知り、「自分の気づいていない一面」や「思わぬ長所」を発見する。 「自分しか知らない自分」を開示していくことで、自己を開放し、打ち解けた人	3～4人 グループワーク

大分県教育センター教育相談部

			間関係を築いていく助けとする。	
2 月	8 22	いいところ三面鏡	自分の長所について知り、 自己の個性の伸長につなげる。	
3 月	5	年間振り返りアンケート	1年間の活動をふりかえる。	個人

※クラス主体で実施。

※エクササイズの内容等は都度検討し、設定。

B校ソーシャルスキルトレーニング年間活動計画

	1 学期	2 学期	3 学期
1 年 リレーション	「聴く」スキル	「他者の意見を 尊重する」 スキル	「上手に断る」 スキル
2 年 自己理解	「短所を長所に かえる」 スキル(リフレーミング)	「友だちに謝る」スキル	「怒りにふり回されな い」スキル (アンガーマネジメント)
3 年 能力の開発	「気持ちを言葉にして 伝える」スキル	「感謝を伝える」スキル	

